

HCV に起因する非代償性肝硬変症に対する DAA 導入後の肝予備能の変化に対する研究 および DAAs による初発肝癌根治後の再発頻度の検討

研究分担者 鳥村拓司 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 教授

研究要旨

我々は、本年度は C 型肝炎ウイルスに起因する非代償性肝硬変症に対するソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果、安全性、および肝予備能や臨床症状の改善に関する検討と、肝細胞癌を根治したのちに DAAs を導入し C 型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発の頻度およびその特徴に関し検討した。ソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果に関する検討では、Child-Pugh class A:2 例、B:24 例、C:6 例、合計 32 例の治療症例のうち全例が SVR12 を達成した。肝機能のうち AST, ALT, アルブミンは有意に増加し、AFP は減少した。また、治療終了後 24 週まで観察可能であった 19 例では、治療終了後 12 週から 24 週までアルブミン値と PT の持続的な改善を認めた。肝予備能の改善に関しては、評価しえた 28 例中 10 例がスコアで 1 点、6 例が 2 点、2 例が 3 点の改善を認めた。しかし、9 例で改善がなく、1 例は悪化を認めた。治療前に胸・腹水を認めた 16 例のうち 7 例で軽快し、肝性脳症を認めた 9 例のうち 4 例で脳症の軽快がみられた。次に、肝細胞癌を根治したのちに DAAs を導入しウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発に関する検討は、ミラノ基準内で初発肝癌に対し肝切除術もしくはラジオ波焼灼療法にて根治を行った後に、DAAs にて C 型肝炎ウイルスを駆除した症例 43 例と対照として初発肝癌に対し根治術を施行後 DAAs やインターフェロンを使用しなかったか使用してもウイルス駆除ができなかった症例 442 例を用いて行った。根治術後に DAAs でウイルスを駆除された症例での肝癌再発率は、ウイルスを駆除されなかった症例に比べて優位に低かった。この結果は、患者背景をプロペンシティブスコア マッチにより合わせても同様の結果であった。肝癌の再発に関与する因子は、多変量解析にてウイルスが駆除されていないことと事前にインターフェロン治療をされていないことが抽出された。さらに、DAAs でウイルスを駆除した症例と駆除されなかった症例での肝癌再発の特徴に関しては、ウイルスを駆除した症例の方が肝予備能良好で、再発した腫瘍数が少なく、再度根治術が可能な症例が多く、肝癌死症例も少なかった。

A. 研究目的

肝細胞癌の最大の原因であった C 型肝炎ウイルス (HCV) 感染は、Direct-acting antivirals (DAAs) の導入により、約 97% と極めて高率にしかも短期間に副作用も少なく駆除できる時代となり、今後ますます患者数の減少が予想される。さらに 2018 年には C 型肝炎ウイルスに由来する非代償性肝硬変症に対し、ソフォスブビル+ベルパタスビルが実臨床で使用可能となった。これにより事実上すべての C 型肝炎ウイルスに起因する慢性肝疾患でウイルスの駆除が可能となった。しかし、非代償性肝硬変症において C 型肝炎ウイルス駆除後に肝予備能や臨床症状がどのように改善していくかの長期的観察に関する報告は乏し

く、今後の検討課題の一つである。一方、我々は以前から本疫学研究班における研究において、C 型肝炎ウイルスを DAAs で駆除した後の肝発癌や肝細胞癌を肝切除やラジオ波焼灼療法などで根治したのちに DAAs を導入し C 型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発に関し検討してきた。さらに昨年度は、本邦の肝細胞がん患者の特徴である、高齢者(65 歳以上)における DAAs で C 型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝発癌に関し、C 型肝炎ウイルスを駆除できていない以前の症例とプロペンシティブスコア マッチにより比較した。その結果、DAAs で C 型肝炎ウイルスを駆除した症例の観察期間が短いためと考えられるが、現時点では 65

歳以上の高齢者においてDAAによるHCVの駆除は、その後の肝発がんを抑制しているとは言えなかった。ただし、初期に治療された症例には、肝発がん高危険症例が多く含まれていた可能性があり、最終的なDAAの肝発がん抑制効果の評価にはもう少しばかりの経過観察が必要と考えられた。以上の結果を踏まえて今年度は、C型肝炎ウイルスに起因する非代償性肝硬変症に対するソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果、安全性、および肝予備能や臨床症状の改善に関する検討と、肝細胞癌を肝切除やラジオ波焼灼療法などで根治したのちにDAAを導入しC型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発に関し、C型肝炎ウイルスを駆除できていない以前の症例で、肝細胞癌を根治したのちに、多中心性再発をきたした症例の頻度およびその特徴に関し検討した。

B. 研究方法

1. C型肝炎ウイルスに起因する非代償性肝硬変症に対するソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果、安全性、および肝予備能や臨床症状の改善に関する検討

a. 症例

久留米大学病院および関連の施設にてソフォスブビル+ベルパタスビルの治療を行った32例を対象とした。

b. 検討項目

ソフォスブビル+ベルパタスビルのC型肝炎ウイルスに対する治療効果、治療前および治療終了後の肝機能及び肝予備能の変化、Child-Pugh scoreの変化、胸・腹水、肝性脳症の変化、安全性・副作用の評価をおこなった。

c. 倫理面での配慮

久留米大学の倫理委員会の承認を受けて検討を行った。久留米大学倫理委員会承認番号：14178

2. 肝細胞癌を根治したのちにDAAを導入しC型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発の頻度およびその特徴に関する検討

a. 症例

対象はミラノ基準を満たす初発肝細胞癌症例のうち2003年から2017年までに久留米大学病院で肝切除術もしくはラジオ波焼灼療法で根治的治療を

受けた症例485例。このうち、43例は肝細胞癌根治術後にDAA治療によりC型肝炎ウイルスが駆除された。

b. 検討項目

全症例の累積生存期間、肝細胞癌根治術後の再発率(プロペンシティブスコア マッチ(-),(+))、肝細胞癌再発に関与する因子、DAAによりC型肝炎ウイルスが駆除された症例とウイルス感染が持続する症例での肝細胞癌再発の比較について解析を行った。

C. 研究成果

1. C型肝炎ウイルスに起因する非代償性肝硬変症に対するソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果、安全性、および肝予備能や臨床症状の改善に関する検討

1) 患者背景

対象とした32症例のうち、男性8例、女性24例であり、年齢は30歳代が1例、40歳代が3例、50歳代が4例、60歳代が6例、70歳代が13例、80歳代が5例であった。C型肝炎ウイルスのGenotypeは1型が24例、2型が8例であった。治療前の肝予備能は、Child-Pugh score 6点が2例、7点が6例、8点が10例、9点が8例、10点が2例、11点が2例、13点、14点が各々1例ずつであった。ソフォスブビル+ベルパタスビル治療前に行われた抗ウイルス治療に関しては、治療ありが6例で、うち5例がインターフェロン治療、1例がDAAによる治療であった。また、肝細胞癌に対する治療歴に関しては、治療歴有が9例であった。肝性脳症歴は9例に認められ、胸・腹水は16例に認められた。また、食道・胃静脈瘤は9例に認められた。

2) 治療成績

全例でソフォスブビル+ベルパタスビルでの治療終了時、治療終了後4,12週すべてでHCV RNAの陰性化が確認された。治療前後における肝機能の推移に関しては、AST,ALT,AFP値は治療前に比べて治療終了後12週までに優位に低下を示し、アルブミン値は有意に増加した。一方、総ビリルビン値、プロトロンビン時間、アンモニア値、血小板に関しては有意な改善は認められなかった(表.1)。

表.1

	Baseline	治療終了時	終了後12週	P-value
AST (U/L)	65.5±31.2	35.9±15.5	33.4±12.6	P<0.0001
ALT (U/L)	±38.2	±9.1	±8.2	
T.Bil (mg/dL)	1.8±1.3	1.5±1.2	1.7±1.4	-
Alb (g/dL)	±0.5	±0.5	±0.6	
PT (%)	70.7±18.1	76.0±18.1	73.0±18.7	-
NH3 (μg/dL)	66.1±46.5	57.5±26.4	69.0±48.0	-
Plt (10 ³ /μL)	9.4±4.6	9.5±4.4	9.6±4.5	-
AFP (ng/mL)	±36.7	±8.8	±36.7	
Fischer比	1.9±1.1	1.8±0.7	2.1±1.7	-
HCV-RNA (Log IU/mL)	5.7±0.9	-	-	-

(mean±SD) *Mann-Whitney's U test or χ² test

各種パラメータの推移

治療終了後 24 週目まで観察しえた 19 例においては、アルブミン値は治療終了後 12 週目に比べても有様に増加傾向を示した。プロトロンビン時間は治療終了後 12 週目に比べ有意に改善したが、治療前と比べると有意差はなかった。肝予備能に関する影響に関しては、治療前に比べて Child-Pugh score の改善を認めた症例が 18 例、不変が 9 例、悪化が 1 例であった。改善した症例のうち、score で 1 点改善が 10 例と最も多く、2 点が 6 例、3 点が 2 例であった。改善した項目は、アルブミン値が 13 例、総ビリルビン値が 3 例、プロトロンビン時間が 3 例、腹水が 7 例であった。アルブミン値の改善に関与する因子としては、アルブミン値が 0.4 g/dl 以上の上昇を改善例とすると、治療前の ALT 値および AFP 値が高い症例でアルブミン値の改善が認められた。胸・腹水は治療前に存在した 16 例のうち 7 例で軽快した。肝性脳症に関しては、治療前に認められた 9 例のうち、4 例で認められなくなったが、5 例はその後再発が認められた。

3) 安全性・副作用

副作用は 10 例に認められ、その内訳は、倦怠感が 2 例、悪心・嘔吐が 2 例、掻痒感が 2 例、感冒様症状が 2 例、頭痛が 1 例であった。さらに、治療中に静脈瘤の破裂による死亡が 1 例に認められた。この症例は Child-Pugh score 14, MELD score 28 で肝移植を検討中の症例であった。

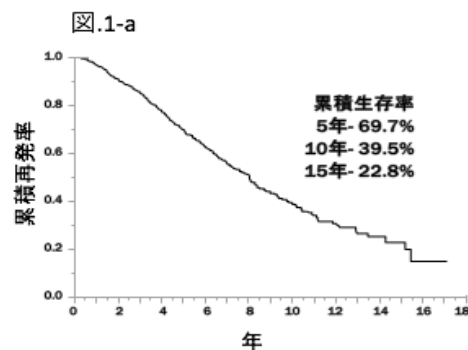
2. 肝細胞癌を根治したのちに DAAs を導入し C 型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発の頻度およびその特徴に関する検討

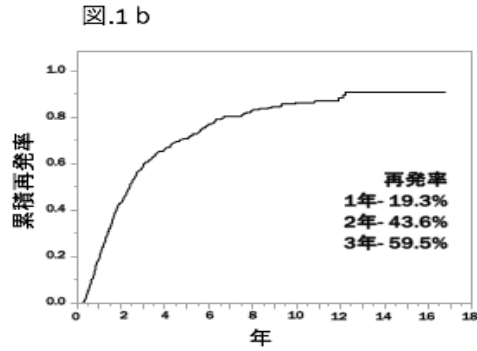
1) 患者背景

ミラノ基準を満たす初発肝細胞癌症例のうち 2003 年から 2017 年までに久留米大学病院で肝切除術もしくはラジオ波焼灼療法で根治的治療を受けた症例 485 例。このうち、ウイルスを駆除できなかったが肝細胞癌発症前にインターフェロン治療を受けた症例、DAAs 治療を受けた症例は各々、141 例と 1 例であった。また、310 例は肝細胞癌発症前に抗ウイルス療法は受けていなかった。初発肝細胞癌根治術後も C 型肝炎ウイルス感染が持続した症例 442 例と肝細胞癌根治術後に DAAs にてウイルスを駆除出来た症例 43 例の背景で有意に違いを認めるものは、腫瘍径がウイルス駆除例で 17.3±5.0 mm, 非駆除例で 20.6±6.8 mm, AFP 値が駆除例で 26.46±50.86 ng/ml, 非駆除例で 126.95±619.14 ng/ml, PIVKA-II が駆除例で 39.71±49.79 mAU/ml, 非駆除例で 108.30±254.77 mAU/ml, 肝細胞癌初発後 2 年以内での死亡が駆除例で 42 例中 1 例、非駆除例で 385 例中 57 例であった。

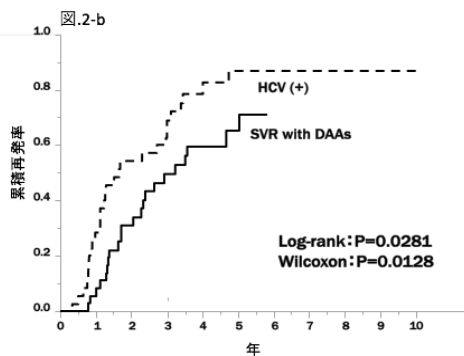
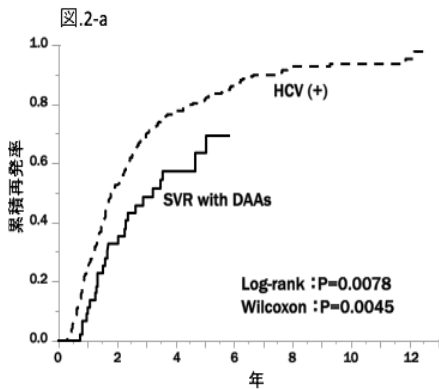
2) 治療成績

全症例の累積生存率は図.1-a で示すように、5 年生存率が 69.7%, 10 年生存率が 39.5%, 15 年生存率が 22.8%であった。一方、肝癌の再発率は根治術後 1 年で 19.3%, 2 年で 43.6%, 3 年で 59.5%であった (図.1-b)。





肝細胞癌根治術後の再発に関する検討において、プロペンシティブスコア マッチ前では、DAAによるウイルス駆除例では1,3,5年再発率が、各々9.3%, 48.9%, 69.8%であり、非ウイルス駆除例では1,3,5年再発率が、各々24.3%, 70.0%, 81.7%で、有意にDAAで肝細胞癌根治術後にC型肝炎ウイルスを駆除した症例の方が、肝細胞がんの再発率は低かった(図2-a)。プロペンシティブスコア マッチにて症例の背景を合わせたのちの検討でも、ウイルス駆除例では1,3,5年再発率が、各々8.3%, 50.2%, 71.5%であり、非ウイルス駆除例では1,3,5年再発率が、各々28.5%, 62.8%, 87.0%で、こちらも有意にDAAで肝細胞癌根治術後にC型肝炎ウイルスを駆除した症例の方が、肝細胞がんの再発率は低かった(図2-b)。



プロペンシティブスコア マッチ後の症例における肝細胞がん再発に関する因子の検討に関しては、対照例も含めた解析において多変量解析でC型肝炎ウイルスが駆除されていない症例と肝細胞癌初発前にインターフェロン治療が行われなかった症例が肝癌再発の危険性が増加することが明らかとなった。次に、根治術後の肝細胞癌の再発様式に関する検討では、表2に示すように、DAAにてウイルスを駆除した症例では、肝予備能が旅行であり、再発した腫瘍も単発例が多く、したがって治療も切除やラジオ波焼灼療法などの根治術が行えた症例が多かった。さらに、死亡原因に関しても、ウイルスを駆除した症例では、肝癌死が有意に少なかった。

表2

HCC根治術後の再発に関するDAAによるSVR例とHCV(+)例の対比 -Propensity Score Matching後-			
	Recurrence after SVR with DAAs	Recurrence with non SVR or no therapy with DAAs	P value
Number of Recurrence case (within 2 years)	22 (11)	29 (19)	0.0695 (0.0698)
AST IU/L	30.0±14.2	55.9±23.7	<0.0001
ALT IU/L	21.9±21.2	39.5±17.5	0.0023
Alb g/dl	3.8±0.4	3.4±0.4	0.0010
Platelet count: x10 ³ /mm ³	17.4±27.7	10.3±5.1	0.1851
Child-Pugh 5/6/7/8/9	17/3/2/0/0	9/11/6/1/2	0.0295
AFP ng/ml (<20/20-100/100<)	65.9±188 (18/2/2)	315.7±1154.9 (13/11/4)	0.3214 (0.1905)
DCP mAU/ml (<40/40<)	56.9±61.3 (14/8)	409.2±1508.5 (14/15)	0.2915 (0.2749)
Tumor size mm	17.0±6.2	17.3±6.4	0.8289
Tumor number 1/2/3	17/3/1	12/7/10	0.0264
Treatment: Hx/RS/TACEtc.	4-15/3	1-17/11	0.0658
Observation period (days)	1566±453	1736±746	0.2475
Number of deaths (cause)	3 (cancer death 1, others 2)	19 (cancer death 12, liver failure 4, others 3)	<0.0001
Recurrence period (days)	1039±552	859±764	0.2576
Second recurrence +/-	10/9	13/5	0.2194
Second recurrence period (days)	806±434	650±437	0.2061

D. 考察

C型肝炎ウイルスに起因する非代償性肝硬変症に対するソフォスブビル+ベルパタスビルの治療効果、安全性、および肝予備能や臨床症状の改善に関する検討について。今回の実臨床における検討において、32例の治療症例のうち全例がSVR12を達成した。肝機能のうちAST, ALT, アルブミンは有意に増加し、AFPは減少した。また、治療終了後24週まで観察例では、治療終了後12週から24週までアルブミン値とPTの持続的な改善を認めた。肝予備能の改善に関しては、評価しえた28例中10例がスコアで1点、6例が2点、2例が3点の改善を認めた。しかし、9例で改善がなく、1例は悪化を認めた。治療前に胸・

腹水を認めた 16 例のうち 7 例で軽快し、肝性脳症を認めた 9 例のうち 4 例で脳症の軽快がみられた。竹原らが報告した国内臨床試験の結果では、C 型肝炎ウイルスが駆除されたのち 12 週後に Child-Pugh class B から class A へ改善がみられたのが 21%, class C から B への改善は 5%に認められた。一方、改善が認められなかったのは、class B で 72%, class B から class C への悪化は 2%に認められた。慢性肝炎や代償性肝硬変においては DAAs にて C 型肝炎ウイルスが駆除された症例ではほぼ 100%肝予備能の改善を認めていたが、非代償性肝硬変症では、肝予備能の改善が認められない症例が存在するばかりでなく、悪化する症例も存在することが明らかとなった。今回の検討では、改善例がやや多い傾向ではあったが、32%は不変もしくは悪化症例であった。今回も多く症例は、治療終了後 12 週までの観察であったが、今後長期的観察で肝予備能の改善がみられるのか、時間をかけても改善がみられないのかが明らかとなると思われる。さらに今後の課題として、どのような症例で肝予備能の改善が期待できるのかを明らかにする必要があったと考えられた。

肝細胞癌を根治したのちに DAAs を導入し C 型肝炎ウイルスを駆除した症例における肝細胞癌の多中心性再発の頻度およびその特徴に関する検討について。今回の検討において、根治術後に DAAs でウイルスを駆除された症例での肝癌再発率は、ウイルスを駆除されなかった症例に比べて優位に低かった。肝癌の再発に関する因子は、対照例も含めた解析においてウイルスが駆除されていないことと事前にインターフェロン治療をされていないことが抽出された。さらに、DAAs でウイルスを駆除した症例と駆除されなかった症例での肝癌再発の特徴に関しては、ウイルスを駆除した症例の方が肝予備能良好で、再発した腫瘍数が少なく、再度根治術が可能な症例が多く、肝癌死症例も少なかった。今回の検討で、初発肝細胞癌根治術後に、DAAs でウイルスを駆除しても、ウイルスが残存している症例に比べては、約 10-20%程度多中心性再発が減少する事が明らかとなったが、DAAs でウイルスを駆除したのちに起こる肝発癌に比べ、多中心性再発率は明らかに高頻度であった。一方、DAAs でウイルスを駆除した症例からの再発は、背景肝の肝予備能が良好なこと、再発する腫瘍個数が比較的少なく、再度根治術が行えた症例が多かつ

たことが明らかとなった。今後の検討課題として、DAAs でウイルスを駆除する方が、生存期間の延長に寄与するか。さらに、どのような症例が再発しやすいかを明らかにしていく必要があると思われる。

E. 結論

今回の検討で、非代償性肝硬変症例でも実臨床において、DAAs にて C 型肝炎ウイルスを駆除出来ることが明らかとなったものの、ウイルス駆除後も肝予備能が改善しない症例が存在することが明らかとなった。また、肝細胞癌を根治したのちに DAAs を導入し C 型肝炎ウイルスを駆除した症例においては、多中心性再発が約 10-20%程度抑制された。また、そのような症例から再発をきたしても、背景肝の肝予備能が良好なこと、再発する腫瘍個数が比較的少ないため再度根治術が行えた症例が多かったことが明らかとなった。

F. 研究危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kawaguchi T, Yamamura S, Nakano D, Tomiyasu Y, Yoshinaga S, Doi Y, Takahashi H, Anzai K, Eguchi Y, Torimura T. An Association between Mild-to-moderate Drinking and Hepatic Fibrosis Evaluated by Shear Wave Elastography in Health Check-up Examinees. アルコールと医学生物学 Vol. 39. 39: 40-41, 2020
2. ○Iwamoto H, Suzuki H, Shimose S, Niizeki T, Nakano M, Shirono T, Okamura S, Noda Y, Kamachi N, Nakamura T, Masuda A, Sakaue T, Tanaka T, Nakano D, Sakai M, Yamaguchi T, Kuromatsu R, Koga H, Torimura T. Weekends-Off Lenvatinib for Unresectable Hepatocellular Carcinoma Improves Therapeutic Response and Tolerability toward Adverse Events. Cancers. 12: E1010, 2020
3. ○Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, Shirono T, Noda Y, Kamachi N, Okamura S, Nakano M, Suga H, Kuromatsu R, Yamaguchi T, Kawaguchi T, Tanaka M, Noguchi K, Koga H, Torimura T. Clinical Significance of Adverse Events for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib: A Multicenter Retrospective Study. Cancers. 12: E1867, 2020
4. Sakemi R, Mitsuyama K, Morita M, Yoshioka S, Kuwaki K, Tokuyasu H, Fukunaga S, Mori A, Araki T, Yoshimura T, Yamasaki H, Tsuruta K, Morita T, Yamasaki S, Mizoguchi A, Sou S, Torimura T.

- Altered serum profile of the interleukin-22 system in inflammatory bowel disease. *Cytokine*. 136: 155264, 2020
5. Kudo M, Ueshima K, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Yasui K, Aino H, Ido A, Kawabe N, Nakao K, Wada Y, Yokosuka O, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Johnson PJ, Arai Y; TACTICS study group. Randomised, multicentre prospective trial of transarterial chemoembolization (TACE) plus sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial. *Gut*. 69: 1492-1501, 2020
 6. Nakano M, Kuromatsu R, Niizeki T, Okamura S, Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, Noda Y, Kamachi N, Koga H, Torimura T. Primary Treatment with Molecular-Targeted Agents for Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score-matching Analysis. *Hepatology Communications*. 4: 1218-1228, 2020
 7. Yamamura S, Kawaguchi T, Nakano D, Tomiyasu Y, Yoshinaga S, Doi Y, Takahashi H, Anzai K, Eguchi Y, Torimura T, Shiba N. Profiles of advanced hepatic fibrosis evaluated by FIB-4 index and shear wave elastography in health check up examinees. *Hepatology Research*. 50: 199-213, 2020
 8. Hirota K, Kawaguchi T, Koya S, Nagamatsu A, Tomita M, Hashida R, Nakano D, Niizeki T, Matsuse H, Shiba N, Torimura T. Clinical utility of the Liver Frailty Index for predicting muscle atrophy in chronic liver disease patients with hepatocellular carcinoma. *Hepatology Research*. 50: 330-341, 2020
 9. Yamasaki H, Mitsuyama K, Yoshioka S, Kuwaki K, Yamauchi R, Fukunaga S, Mori A, Tsuruta O, Torimura T. Leukocyte Apheresis Using a Fiber Filter Suppresses Colonic Injury Through Calcitonin Gene-Related Peptide Induction. *Inflammatory bowel diseases*. 11: 709-719, 2020
 10. Narao H, Hirota K, Koya S, Tomita M, Manako Y, Ogawa S, Nakao N, Tsutsumi T, Nakano D, Hashida R, Kawaguchi T, Matsuse H, Nagamatsu H, Torimura T. Effects of In-Hospital Physical Therapy on Activities of Daily Living in Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Int J Environ Res Public Health*. 17: E9098, 2020
 11. Nakano D, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Yamamura S, Shigeto K, Hashida R, Koga H, Torimura T. Alteration of the serum myostatin level following L carnitine treatment in patients with chronic liver disease: A pilot study. *International Journal of Functional Nutrition*. 1: 1-7, 2020
 12. Masuda A, Nakamura T, Abe M, Iwamoto H, Sakae T, Tanaka T, Suzuki H, Koga H, Torimura T. Promotion of liver regeneration and antifibrotic effects of the TGFbeta receptor kinase inhibitor galunisertib in CCl4-treated mice. *International Journal of Molecular Medicine*. 46: 427-438, 2020
 13. Takahashi H, Nakahara T, Kogiso T, Imajo K, Kessoku T, Kawaguchi T, Ide T, Kawanaka M, Hyogo H, Fujii H, Ono M, Kamada Y, Sumida Y, Anzai K, Shimizu M, Torimura T, Nakajima A, Tokushige K, Chayama K, Eguchi Y, Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD). Eradication of hepatitis C virus with direct-acting antivirals improves glycemic control in diabetes: A multicenter study. *JGH Open*. 5: 228-234, 2020
 14. Kawaguchi T, Yoshio S, Sakamoto Y, Hashida R, Koya S, Hirota K, Nakano D, Yamamura S, Niizeki T, Matsuse H, Torimura T. Impact of Decorin on the Physical Function and Prognosis of Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Journal of Clinical Medicine*. 9: E936, 2020
 15. Morita T, Mitsuyama K, Yamasaki H, Mori A, Yoshimura T, Araki T, Morita M, Tsuruta K, Yamasaki S, Kuwaki K, Yoshioka S, Takedatsu H, Torimura T. Gene Expression of Transient Receptor Potential Channels in Peripheral Blood Mononuclear Cells of Inflammatory Bowel Disease Patients. *Journal of Clinical Medicine*. 9: 2643, 2020
 16. Yamamura S, Eslam M, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Nakano D, Yoshinaga S, Takahashi H, Anzai K, George J, Torimura T. MAFLD identifies patients with significant hepatic fibrosis better than NAFLD. *Liver International*. inpress 2020
 17. Takahashi A, Ohira H, Abe K, Zeniya M, Abe M, Arinaga-Hino T, Torimura T, Yoshizawa K, Takaki A, Kang JH, Suzuki Y, Nakamoto N, Inui A, Tanaka A, Takikawa H. Differences in autoimmune hepatitis based on inflammation localization. *Medical Molecular Morphology*. inpress 2020
 18. Takahashi A, Abe M, Yasunaka T, Arinaga-Hino T, Abe K, Takaki A, Torimura T, Zeniya M, Yoshizawa K, Kang J, Suzuki Y, Nakamoto N, Inui A, Tanaka A, Takikawa H, Ohira H. Quality of life among patients with autoimmune hepatitis in remission. *Medicine*. 99: e22764, 2020
 19. Shimose S, Kawaguchi T, Iwamoto H, Tanaka M, Miyazaki K, Ono M, Niizeki T, Shirono T, Okamura S, Nakano M, Suga H, Yamaguchi T, Yokokura Y, Noguchi K, Koga H, Torimura T. Controlling Nutritional Status (CONUT) Score is Associated with Overall Survival in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib: A Multicenter Cohort Study. *Nutrients*. 12: E1076, 2020
 20. Shigeto K, Kawaguchi T, Koya S, Hirota K, Tanaka T, Nagasu S, Fukahori M, Ushijima T, Matsuse H, Miwa K, Nagafuji K, Torimura T. Profiles Combining Muscle Atrophy and Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Are Associated With Prognosis of Patients With Stage IV Gastric Cancer. *Nutrients*. 12: E1884, 2020

21. ○Shimose S, Iwamoto H, Tanaka M, Niizeki T, Shirono T, Nakano M, Okamura S, Noda Y, Kamachi N, Sakai M, Suzuki H, Nomiyama M, Kuromatsu R, Koga H, Torimura T. Increased Arterio-Portal Shunt Formation after Drug-Eluting Beads TACE for Hepatocellular Carcinoma. *Oncology*. 18: 1-8, 2020
22. ○Hashida R, Kawaguchi T, Koya S, Hirota K, Goshima N, Yoshiyama T, Otsuka T, Bekki M, Iwanaga S, Nakano D, Niizeki T, Matsuse H, Kawaguchi A, Shiba N, Torimura T. Impact of cancer rehabilitation on the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma. *Oncology Letters*. 19: 2355-2367, 2020
23. ○Shimose S, Kawaguchi T, Iwamoto H, Niizeki T, Shirono T, Tanaka M, Koga H, Torimura T. Indication of suitable transarterial chemoembolization and multikinase inhibitors for intermediate stage hepatocellular carcinoma. *Oncology Letters*. 19: 2667-2676, 2020
24. ○Shimose S, Kawaguchi T, Tanaka M, Iwamoto H, Miyazaki K, Moriyama E, Suzuki H, Niizeki T, Shirono T, Nakano M, Suga H, Yamaguchi T, Yokokura Y, Noguchi K, Koga H, Torimura T. Lenvatinib prolongs the progression free survival time of patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma refractory to transarterial chemoembolization: A multicenter cohort study using data mining analysis. *Oncology Letters*. 20: 2257-2265, 2020
25. ○Nakano D, Kawaguchi T, Iwamoto H, Hayakawa M, Koga H, Torimura T. Effects of canagliflozin on growth and metabolic reprogramming in hepatocellular carcinoma cells: Multi-omics analysis of metabolomics and absolute quantification proteomics (iMPAQT). *PLoS One*. 15: e0232283, 2020
26. Takahashi A, Ohira H, Abe K, Zeniya M, Abe M, Arinaga-Hino T, Torimura T, Yoshizawa K, Takaki A, JKang JH, Suzuki Y, Nakamoto N, Inui A, Tanaka A& Takikawa H. Increasing incidence of acute autoimmune hepatitis: a nationwide survey in Japan. *Scientific Reports*. 10: 14250, 2020
27. Imai T, Yamasaki H, Mitsuyama K, Yamaga O, Sugihara G, Kaida Y, Shibata R, Hazama T, Yoshioka S, Torimura T, Fukami K, Yamashita N. Single Needle Granulocyte and Monocyte Apheresis for Ulcerative Colitis: A Retrospective Safety Analysis. *The Kurume Medical Journal*. 66; 1-17, 2020
28. Iwanaga S, Hashida R, Takano Y, Bekki M, Nakano D, Omoto M, Nago T, Kawaguchi T, Matsuse H, Torimura T, Shiba N. Hybrid Training System Improves Insulin Resistance in Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Randomized Controlled Pilot Study. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 252: 23-32, 2020
29. Shindo Y, Mitsuyama K, Yamasaki H, Imai T, Yoshioka S, Kuwaki K, Yamauchi R, Yoshimura T, Araki T, Morita M, Tsuruta K, Yamasaki S, Fukami K, Torimura T. Safety and efficacy of single-needle leukocyte apheresis (LCAP) for treatment of ulcerative colitis. *Therapeutic Apheresis and Dialysis*. 24: 503-510, 2020
30. Kawaguchi T, Arinaga-Hino T, Morishige S, Mizuochi S, Abe M, Kunitake K, Sano T, Amano K, Kuwahara R, Ide T, Nagafuji K, Torimura T. Prednisolone-responsive primary sclerosing cholangitis with autoimmune hemolytic anemia: a case report and review of the literature. *Clinical Journal of Gastroenterology*. inpress 2020
31. Fukunaga S, Kusaba Y, Ohuchi A, Nagata T, Mitsuyama K, Tsuruta O, Torimura T. Is Artificial Intelligence a Superior Diagnostician in Ulcerative Colitis?. *Endoscopy*. inpress 2020
32. Ishida Y, Okabe Y, Hisaka T, Naito Y, Torimura T. Mass-forming adenomyomatosis in extrahepatic bile duct. *Gastrointestinal Endoscopy*. inpress 2020
33. Kawaguchi T, Ikuta K, Tatsumi Y, Toki Y, Hayashi H, Tonan T, Ohtake T, Hoshino S, Naito M, Kato K, Okumura T, Torimura T. Identification of Heterozygous p.Y150C and p.V274M mutations in the HJV gene in a Japanese patient with mild phenotype of Juvenile hemochromatosis: A Case Report. *Hepatology Research*. 50: 144-150, 2020
34. Fukunaga S, Mori A, Ohuchi A, Yoshioka S, Akiba J, Mistuyama K, Tsuruta O, Torimura T. Abdominal pain, diarrhea and bloody stools in a patient treated for renal cell carcinoma with sunitinib. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*. 35: 10, 2020
35. 鈴木浩之、岩本英希、新関 敬、下瀬茂男、城野智毅、山口泰三、矢野博久、奥田康司、古賀浩徳、鳥村拓司. Stage IVA 巨大肝細胞癌に対し血管内治療と分子標的治療を中心とした集学的治療で長期生存が得られている症例. *肝臓*. 61; 418-425, 2020
36. 安元真希子、荒木俊博、岡部義信、新関 敬、城野智毅、石田祐介、牛島知之、阪上尊彦、鶴田 修、鳥村拓司. 巨大総胆管結石に併発した膵十二指腸動脈瘤破裂による胆道出血の1救命例. *日本消化器病学会雑誌*. 117: 92-98, 2020
37. Yamamura S, Nakano D, Hashida R, Tsutsumi T, Kawaguchi T, Okada M, Isoda H, Takahashi H, Matsuse H, Eguchi Y, Sumida Y, Nakajima A, Gerber L, Younossi ZM, Torimura T. Patient-reported Outcomes (PROs) in Patients With Non-alcoholic Fatty Liver Disease: A Narrative Review of CLDQ-NAFLD/NASH. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*. inpress 2020

38. 川口 巧、鳥村拓司. 7. NAFLD/NASH, 肝がんの診断と治療—基礎研究から臨床応用へ— 2) 高血圧・脂質異常症合併例の薬物選択肢. *Progress in Medicine*. 40: 497-502, 2020
39. 岡部義信、牛島知之、島松 裕、平井真吾、寺部寛哉、安元真希子、佐々木優、榊原重成、鳥村拓司. 内視鏡的胆管結石除去術時のトラブルシューティング. *肝胆膵*. 81: 228-233, 2020
40. 岡部義信、牛島知之、島松 裕、安元真希子、深堀 理、阪上尊彦、平井真吾、寺部寛哉、石田祐介、鶴田 修、鳥村拓司. 緊急内視鏡的胆管ドレナージ術の実際：急性胆管炎・結石嵌頓・胆石性膵炎を中心に. *胆と膵*. 41: 167-173, 2020
41. 川口 巧、鳥村拓司. [私の治療] 肝性脳症. *日本医事新報*. 5016: 47, 2020
42. 川口 巧、橋田竜騎、神谷俊次、広田佳介、永松あゆ、中野 暖、堤 翼、山村咲良、下瀬茂男、新関 敬、松瀬博夫、鳥村拓司. 特集：肝硬変診療の新時代 3：肝硬変合併症の診断と治療 (4) 肝硬変におけるサルコペニアとその対策. *臨床消化器内科*. 35：1564-1573, 2020
43. Kawaguchi T, Shimose S, Yamamura S, Nakano D, Tanaka M, Torimura T. Changes in prognostic factors for patients with hepatocellular carcinoma underwent transarterial chemoembolization with the transition of the time: Child-Pugh class, Albumin-Bilirubin grade, and then. *Annals of Translational Medicine*. 8: 1045, 2020
44. Kawaguchi T, Torimura T. Is metabolic syndrome responsible for the progression from NAFLD to NASH in non-obese patients?. *Journal of gastroenterology*. 55: 363-364, 2020
45. Yoshimura T, Mitsuyama K, Sakemi R, Takedatsu H, Yoshioka S, Kuwaki K, Mori A, Fukunaga S, Araki Y, Morita M, Tsuruta K, Yamasaki H, Torimura T. Evaluation of Serum Luecine-rich Alpha-2 Glycoprotein as a New Inflammatory Biomarker of Inflammatory Bowel Disease. *Mediators of Inflammation*. inpress 2020
46. 永田 務、鶴田 修、荒木俊博、南 真平、長 知徳、重藤宏太、草場喜雄、中根智幸、大内彬弘、国武泰史、久永 宏、福永秀平、向笠道太、河野弘志、光山慶一、鳥村拓司. 大腸鋸歯状病変に対する臨床診断の現状と課題：経過観察、選択的治療の観点から. *胃と腸*. 55: 1589-1596, 2020
47. Sano T, Amano K, Ide T, Kawaguchi T, Kuwahara R, Arinaga-Hino T, Koga H, Kuromatsu R, Torimura T. Short-term efficacy after switching from adefovir dipivoxil and tenofovir disoproxil fumarate therapy to tenofovir alafemamide for chronic hepatitis B. *Biomedical Reports*. 14: 12, 2021
48. Shimose S, Iwamoto H, Tanaka M, Niizeki T, Shirono T, Noda Y, Kamachi N, Okamura S, Nakano M, Suga H, Yamaguchi T, Kawaguchi T, Kuromatsu R, Noguchi K, Koga H, Torimura T. Alternating Lenvatinib and Trans-Arterial Therapy Prolongs Overall Survival in Patients with Inter-Mediate Stage HepatoCellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Study. *Cancers*. 13: 160, 2021
49. Iwamoto H, Niizeki T, Nagamatsu H, Ueshima K, Nomura T, Kuzuya T, Kasai K, Kooka Y, Hiraoka A, Sugimoto R, Yonezawa T, Ishihara A, Deguchi A, Arai H, Shimose S, Shirono T, Nakano M, Okamura S, Noda Y, Kamachi N, Sakai M, Suzuki H, Aino H, Matsukuma N, Matsugaki S, Ogata K, Yano Y, Ueno T, Kajiwarra M, Itano S, Fukuizumi K, Kawano H, Noguchi K, Tanaka M, Yamaguchi T, Kuromatsu R, Kawaguchi A, Koga H, Torimura T. Survival Benefit of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy over Sorafenib in the Treatment of Locally Progressed Hepatocellular Carcinoma. *Cancers*. 13: 646, 2021
50. Tsuchihashi J, Koya S, Hirota K, Koga N, Narao H, Tomita M, Kawaguchi T, Hashida R, Nakano D, Tsutsumi T, Yoshio S, Matsuse H, Sanada T, Notsumata K, Torimura T. Effects of In-Hospital Exercise on Frailty in Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Cancers*. 13: E194, 2021
51. Toshihiro Tanaka, Hideki Iwamoto, Mitsuteru Fujihara, Hideyuki Nishiofuku, Tetsuya Masada, Hiroyuki Suzuki, Hironori Koga, Takuji Torimura, Kimihiko Kichikawa. Efficacy of a Glass Membrane Emulsification Device to Form Mixture of Cisplatin Powder with Lipiodol on Transarterial Therapy for Hepatocellular Carcinoma. *CardioVascular and Interventional Radiology*. inpress 2021
52. Murayama K, Okada M, Tanaka K, Inadomi C, Yoshioka W, Kubotsu Y, Yada T, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Akiyama T, Oza N, Hyogo H, Ono M, Kawaguchi T, Torimura T, Anzai K, Eguchi Y, Takahashi H. Prediction of Nonalcoholic Fatty Liver Disease Using Noninvasive and Non-Imaging Procedures in Japanese Health Checkup Examinees. *Diagnostics*. 11: 132, 2021
53. Nakano M, Kuromatsu R, Niizeki T, Okamura S, Iwamoto H, Shimose S, Shirono T, Noda Y, Kamachi N, Koga H, Torimura T, Kurume Liver Cancer Study Group of Japan. Immunological inflammatory biomarkers as prognostic predictors for advanced hepatocellular carcinoma. *ESMO Open*. 6: 100020, 2021
54. Hashida R, Takano Y, Matsuse H, Kudo M, Bekki M, Omoto M, Nago T, Kawaguchi T, Torimura T, Shiba N. Electrical Stimulation of the Antagonist Muscle during Cycling Exercise Interval Training Improves Oxygen Uptake and Muscle Strength. *Journal of Strength and Conditioning Research*. 35: 111 117, 2021

55. Fukahori M, Kato K, Taniguchi H, Ohtomo R, Takahashi N, Shoji H, Iwasa S, Honma Y, Takashima A, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y, Ito Y, Itami J, Hokamura N, Igaki H, Tachimori Y, Miwa K, Torimura T and Boku N. Relationship between cervical esophageal squamous cell carcinoma and human papilloma virus infection and gene mutations. *Molecular and Clinical Oncology*. 14 : 41, 2021
- 2. 学会発表**
1. 岩本英希、下瀬茂男、新関 敬、津村紗代、中野聖士、城野智毅、山口泰三、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司。肝細胞癌に対するレンパチニブ投与における有害事象出現時期と外来テレフォロアアップの重要性について。第21回日本肝がん分子標的治療研究会。東京。2020/1
 2. 中野聖士、黒松亮子、新関 敬、岡村修祐、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、野田 悠、蒲池直紀、古賀浩徳、鳥村拓司。進行肝細胞癌に対する分子標的治療の予後予測における好中球/リンパ球比の有用性。第21回日本肝がん分子標的治療研究会。東京。2020/1
 3. Kawaguchi T, Yamamura S, Nakano D, Tomiyasu Y, Yoshinaga S, Doi Y, Takahashi H, Anzai K, Eguchi Y, Torimura T。ワークショップ(3)。Recent Advances in NASH Research from bench to bedside。健診受診者における肝線維化と小 中等度飲酒の関連：shear wave elastography を用いた検討 An Association between Mild-to-moderate Drinking and Hepatic Fibrosis Evaluated by Shear Wave Elastography in Health Check-up Examinees。第39回アルコール医学生物学研究会学術集会。東京。2020/1
 4. 国武和也、川口俊弘、有永照子、森重 聡、佐野有哉、天野恵介、桑原礼一郎、井出達也、鳥村拓司。原発性硬化性胆管炎の増悪時に自己免疫性溶血性貧血の発症を認めた症例。第328回日本内科学会九州地方会。福岡市。2020/1
 5. 田中寛士、南 真平、小林哲平、白地美紀、梶原雅彦、小野典之、富岡竜介、鳥村拓司。治療に難渋した若年性ポリポーシスの1例。第328回日本内科学会九州地方会。福岡市。2020/1
 6. Torimura T。Current Status of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy。THE 24 TH International Symposium of Yonsei Institute of Gastroenterology。Avison Biomedical Research Center, Yonsei University Health System。2020/2
 7. 石井海人、内藤嘉紀、秋葉 純、谷川雅彦、矢野博久、川口 巧、古賀浩徳、鳥村拓司。直腸カルチノイドにおける INSM1 発現の検討。第12回福岡県医学会総会。福岡市。2020/2
 8. 江田 誠、有永照子、井出達也、緒方 啓、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、佐野有哉、新関 敬、鳥村拓司。エンテカビル怠薬により HBe 抗原のセロコンバージョンと肝不全へ進行した B 型肝炎硬変の1例。第12回福岡県医学会総会。福岡市。2020/2
 9. Koga H, Imamura Y, Nakamura T, Iwamoto H, Sakaue T, Masuda A, Tanaka T, Nakano D, Suzuki H, Yano H, Torimura T。Opposite functions of Claudin-2 involving Wnt signaling in liver cancer cells。The (110th) Virtual Annual Meeting of the American Association for Cancer Research(AACR)。WEB。2020/4
 10. 堀まいさ、緒方 啓、吉村哲広、東恵理子、有永照子、鳥村拓司。仕事と子供と私一時々、夫一。第115回日本消化器病学会九州支部例会 第109回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。誌上開催。2020/6
 11. 南 真平、向笠道太、福永秀平、中根智幸、長 知徳、永田 務、大内彬弘、草場喜雄、荒木俊博、秋葉 純、森 直樹、的場 吾、光山慶一、鶴田修、鳥村拓司。食道原発悪性黒色腫の一例。第115回日本消化器病学会九州支部例会 第109回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。誌上開催。2020/6
 12. 平井真吾、安元真希子、岡部義信、牛島知之、深堀 理、島松 裕、鶴田 修、鳥村拓司。膀胱吻合部狭窄に対して経消化管(輸入脚)的膀胱ドレナージ術を行なった1例。第115回日本消化器病学会九州支部例会 第109回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。誌上開催。2020/6
 13. 中根智幸、向笠道太、福永秀平、長 知徳、南 真平、大内彬弘、永田 務、草場喜雄、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司。AFP 産生胃癌の2例。第115回日本消化器病学会九州支部例会 第109回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。誌上開催。2020/6
 14. 福永秀平、草場喜雄、荒木俊博、長 知徳、中根智幸、永田 務、大内彬弘、向笠道太、秋葉 純、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司。超拡大内視鏡と AI が潰瘍性大腸炎関連腫瘍のサーベイランスに

- 有用であった一例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
15. 田中寛士、中尾昴史、白地美紀、梶原雅彦、小野典之、鳥村拓司. 大腸悪性狭窄に対して留置した大腸ステントによって腸管穿孔をきたしかけた一例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 16. 榊原重成、松垣 諭、宋 祐人、平塚裕也、武田和夫、別府剛志、寺部寛哉、酒見亮介、鳥村拓司. 動脈塞栓術で止血しえた大腸憩室出血の 1 例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 17. 蒲池直紀、岡村修祐、安元真希子、野田 悠、中野聖士、岡部義信、黒松亮子、鳥村拓司. 肝内に非典型的な画像所見を呈した IgG4 関連疾患の一例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 18. 桑野 徹、山口翔太郎、宮崎 健、林 大樹、豊増 靖、森田 拓、河野克俊、坂田研二、野口和典、杉町圭史、鳥村拓司. 診断に苦慮した胃 GIST 術後 32 年目に多発肝転移をきたした一例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 19. 河野 隆、蒲池直紀、野田 悠、下瀬茂男、新関敬、岩本英希、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝原発腺扁平上皮癌の 1 例. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 20. 吉岡慎一郎、山内亨介、荒木俊博、鶴田耕三、森田 俊、吉村哲広、森 敦、桑木光太郎、光山慶一、鳥村拓司. シンポジウム (2) . IBD special situation における諸問題 (消化器病・内視鏡) . 当院における炎症性腸疾患合併妊娠の現状と問題点. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 21. 新関 敬、下瀬茂男、鳥村拓司. シンポジウム (3) . 肝がん治療の最前線 (消化器病) . 分子標的治療薬の時代における進行肝細胞癌に対する TACE, 肝動注化学療法への役割. 第 115 回日本消化器病学会九州支部例会 第 109 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同. 誌上開催. 2020/6
 22. 鈴木浩之、岩本英希、中村 徹、増田篤高、阪上尊彦、田中俊光、中野 暖、今村恭子、早川政子、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム (1) . 肝免疫と微細環境. レンパチニブは肝細胞癌の免疫微小環境を immune cold から hot へと変化させる. 第 57 回日本消化器免疫学会総会. 誌上開催. 2020/7
 23. 吉岡慎一郎、酒見亮介、光山慶一、荒木俊博、鶴田耕三、森田 俊、吉村哲広、森敦、山内亨介、桑木光太郎、鳥村拓司. シンポジウム (1) . 肝免疫と微細環境. 新規血清バイオマーカーを活動性指標とした炎症性腸疾患治療への試み. 第 57 回日本消化器免疫学会総会. 誌上開催. 2020/7
 24. 川口 巧、橋田竜騎、鳥村拓司. 合同シンポジウム (1) . 日本動脈硬化学会・日本肝臓学会合同シンポジウム. NAFLD/NASH における運動療法の Systematic Review とハイブリッドトレーニングの有効性. 第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. WEB. 2020/7
 25. 牛島知之、島松 裕、鶴田 修、鳥村拓司. 3 年間のステロイド維持療法後に投与を中止した自己免疫性膵炎の再熱に関わる因子の検討. 第 106 回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
 26. 阪上尊彦、岡部義信、石田祐介、安元真希子、牛島知之、島松 裕、平井真吾、深堀 理、鳥村拓司. 当院における胆管狭窄に対する経乳頭的病理診断能の成績と問題点. 第 106 回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
 27. 川口俊弘、井出達也、鳥村拓司. 当院における C 型非代償性肝硬変におけるソホスブビル/ペルパタスビル (SOF/VEL) 14 症例での治療効果・副作用に関する検討. 第 106 回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
 28. 中野 暖、川口 巧、岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. SGLT2 阻害剤が NASH 関連肝癌マウスモデルの腫瘍増殖と肝癌細胞の代謝におよぼす影響: Multi-omics analysis. 第 106 回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8

29. 中村 徹、増田篤高、鳥村拓司. シンポジウム(1). 消化器疾患に対する再生医療の現状と展望. C型非代償性肝硬変症に対する自家末梢血CD34陽性細胞を用いた肝再生治療開発. 第106回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
30. 川口 巧、山村咲良、鳥村拓司. パネルディスカッション(4). NAFLD診療の最前線. FIB-4indexとshear wave elastographyを用いた検診受診者の肝硬度の実態と病態: データマイニング解析. 第106回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
31. 井出達也、有永照子、鳥村拓司. ワークショップ(1). 消化器癌一次予防の新たなコンセンサス. 抗ウイルス治療が肝癌予防に有効に行われているか. 最近の初発肝癌例の治療状況の検討. 第106回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
32. ○黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. ワークショップ(2). 肝疾患の疫学と自然史. 27年間に診断された肝癌症例の臨床的特徴と生存の推移-短期死亡例の検討. 第106回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
33. 岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. ワークショップ(6). 臨床応用に向けた肝癌の病態解明. 肝細胞癌に対する血管新生阻害剤の正常臓器血管への影響と癌血管特異的遺伝子の探索. 第106回日本消化器病学会総会. WEB. 2020/8
34. 佐野有哉、芥田憲夫、粕谷加代子、川村祐介、鈴木義之、鳥村拓司、熊田博光. 造血幹細胞移植後のde novo B型肝炎に伴う急性肝不全(昏睡型)から内科的治療で救命し得た1例. 第46回日本急性肝不全研究会. 千葉市. 2020/8
35. Kawaguchi T, Emori K, Torimura T. JSH-CHESS Joint Session / Unmet Needs in Portal Hypertension. Current Treatment and Unsolved Issue for Portal Hypertension Based on Japanese Guidelines of Liver Cirrhosis. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
36. 中野 暖、川口 巧、岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. SGLT2阻害剤が肝細胞癌の増殖と代謝に及ぼす影響. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
37. 城野智毅、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝細胞癌(HCC)に対するBalloon-Occluded Transarterial Chemoembolization(B-TACE)とCoventional TACE(C-TACE)のTE4. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
38. 新関 敬、下瀬茂男、岩本英希、城野智毅、中野聖士、野田 悠、岡村修祐、蒲池直紀、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 分子標的治療薬の時代における肝動脈化学塞栓術と肝動注化学療法への適応をそのCR例から考察する. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
39. ○井出達也、江口有一郎、原田 大、磯田広史、本間雄一、有永照子、桑原礼一郎、天野恵介、川口俊弘、佐野有哉、鳥村拓司. 高齢者C型肝炎でのDAA治療SVR例の発癌についての検討 propensity score matchingを用いた検討も含めて. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
40. 土橋 仁、川口 巧、真田 拓、橋田竜騎、鳥村拓司、野ツ俣 和夫. 運動療法が肝細胞癌患者のフレイルに及ぼす影響. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
41. 鈴木浩之、岩本英希、中村 徹、増田篤高、阪上尊彦、田中俊光、中野 暖、古賀浩徳、鳥村拓司. レンバチニブは腫瘍免疫微小環境を免疫学的'cold'から'hot'へ変化させる. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
42. 下瀬茂男、新関 敬、岩本英希、城野智毅、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. レンバチニブにおける有害事象発現時期と有害事象による治療中止に関わる因子の検討. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
43. 原 礼子、緒方 啓、堀まいさ、東恵理子、吉村哲広、北川利香、江 祐子、益永 愛、渡邊悦富、白石智己、森下麻子、中島由佳里、井出達也、鳥村拓司. 当院の多職種による肝炎ワーキングチームの立ち上げと活動. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
44. 井出達也、天野恵介、鳥村拓司. 福岡県における無料肝炎ウイルス検査陽性者の精密検査受診の状況. 第56回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
45. 岩尾直樹、岡村修祐、蒲池直紀、野田 悠、城野智毅、下瀬茂男、岩本英希、中野聖士、新関 敬、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 再発時に神経内分泌マーカーの発現を獲得したと考えられる肝

- 細胞癌の一例. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
46. 岩本英希、古賀浩徳、鳥村拓司. シンポジウム(4). 肝疾患と微小環境. 分子標的治療薬による癌及び臓器微小環境の変化は、有害事象の出現や癌の進展及び薬剤抵抗性に関与しうる. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
47. 川口俊弘、井出達也、鳥村拓司. パネルディスカッション (1) . C 型非代償性肝硬変に対する抗ウイルス治療. 当院・関連施設における C 型非代償性肝硬変におけるソホスブビル/ベルパタスビル (SOF/VEL) 26 症例での治療効果・副作用に関する検討. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
48. ○中野聖士、古賀浩徳、鳥村拓司. パネルディスカッション (3) . 肝癌に対する分子標的治療および免疫治療 Liver cancer related session (Molecular Targeted Therapy and Immunotherapy) . 進行肝細胞癌に対する分子標的薬による一次治療に関する Propensity score matching を用いた比較. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
49. 川口 巧、山村咲良、鳥村拓司. パネルディスカッション (6) . 肝癌・肝炎の拾い上げとリスク評価 How to find population carrying risk for hepatitis and/or hepatocellular carcinoma. 健診受診者における肝線維化進展に関わるアルゴリズム: shear wave elastography とデータマイニングを用いた検討. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
50. 川口 巧、橋田竜騎、鳥村拓司. パネルディスカッション (7) . 肝疾患とサルコペニア 現状・課題・将来展望 Liver disease and sarcopenia: current status, remaining issues and future prospects. 慢性肝疾患患者における JSH サルコペニア判定基準と Liver Frailty Index の筋萎縮予測指標としての有用性の検討. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
51. 桑原礼一郎、井出達也、鳥村拓司. パネルディスカッション (8) . 肝移植医療における内科・外科連携の現状と問題点 Current status and Issues of cooperation between physicians and surgeons in Liver Transplantation. 肝臓内科医の肝移植医療への貢献度を向上させるために 肝臓内科医が外科肝移植チームでの研修で得たもの. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
52. 有永照子、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ (5) . 自己免疫性肝疾患の新展開 Update on autoimmune liver diseases. 自己免疫性肝炎におけるアザチオプリン治療の役割. 第 56 回日本肝臓学会総会. 大阪市. 2020/8
53. 島松 裕、岡部義信、安元真希子、阪上尊彦、牛島知之、深堀 理、谷川雅彦、内藤嘉紀、鶴田 修、鳥村拓司. 当院で経験した腓神経内分泌腫瘍 (PNEN) に対する EUS-FNA の診断能の検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都市. 2020/9
54. 安元真希子、岡部義信、牛島知之、阪上尊彦、島松 裕、内藤嘉紀、深堀 理、鶴田 修、鳥村拓司. 当院の TS1 腓癌における EUS-FNA の成績と問題点の検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都市. 2020/9
55. 牛島知之、岡部義信、島松 裕、阪上尊彦、深堀理、安元真希子、鶴田 修、鳥村拓司. 当院における悪性十二指腸・胆管閉塞に対する内視鏡的ダブルステントニングの成績と問題点. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会. 京都市. 2020/9
56. Tanaka T, Koga H, Iwamoto H, Suzuki H, Sakaue T, Akiba J, Yano H, Torimura T. Anti-PD-L1 antibodies promote proliferation of sarcomatous liver cancer cells. 第 79 回日本癌学会学術総会. WEB. 2020/10
57. Suzuki H, Iwamoto H, Sakaue T, Tanaka T, Koga H, Torimura T. Elevated serum IGFBP-1 levels after lenvatinib treatment reflect intratumoral ischemia. 第 79 回日本癌学会学術総会. WEB. 2020/10
58. 下河邊亮、酒井味和、岡部義信、安元真希子、平井真吾、牛島知之、黒松亮子、鳥村拓司. 小径の肝転移巣の描出に造影超音波検査が有用であった腓頭部癌の 1 例. 日本超音波医学会 (第 30 回九州地方会学術集会) . 久留米市. 2020/10
59. 酒井味和、新関 敬、牛島知之、岡村修祐、城野智毅、岩本英希、下瀬茂男、黒松亮子、鳥村拓司. 胆管内腫瘍栓と凝血塊の鑑別に造影超音波検査が有用であった肝細胞癌の一例. 日本超音波医学会 (第 30 回九州地方会学術集会) . 久留米市. 2020/10
60. 大田 諭、酒井味和、城野智毅、新関 敬、岡村修祐、蒲池直紀、野田 悠、中野聖士、黒松亮子、

- 鳥村拓司. 造影超音波検査が診断の一助となった肝細胞癌脾転移の一例. 日本超音波医学会 (第30回九州地方会学術集会). 久留米市. 2020/10
61. 蒲池直紀、黒松亮子、岡村修祐、野田 悠、城野智毅、中野聖士、新関 敬、中島 収、鳥村拓司. 造影超音波を施行しえた肝転移の腹腔内破裂を契機に診断された性腺外発生の絨毛癌の一例. 日本超音波医学会 (第30回九州地方会学術集会). 久留米市. 2020/10
62. 岡村修祐、黒松亮子、酒井味和、蒲池直紀、野田悠、中野聖士、中島 収、鳥村拓司. 「マルチモダリティ時代に超音波検査に求められるものは何か」多様化する肝臓診療における超音波検査の役割. 日本超音波医学会 (第30回九州地方会学術集会). 久留米市. 2020/10
63. 江田 誠、佐野有哉、川口俊弘、天野恵介、桑原礼一郎、江森啓悟、有永照子、井出達也、於保和彦、鳥村拓司. 原発性骨髄線維症に伴う門脈圧亢進症、難治性腹水に対してトルバプタン、ルキソリチニブを導入した一例. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
64. 向笠道太、江森啓悟、井上博人、久永 宏、於保和彦、豊永 純、鳥村拓司. 食道静脈瘤上に存在する表在食道癌に対し内視鏡治療を施行した一例. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
65. 久永 宏、江森啓悟、井上博人、井出達也、於保和彦、豊永 淳、鳥村拓司. パネルディスカッション (1). ウイルス性肝炎 SVR 後に門脈圧亢進症は改善するか. C 型肝炎直接作用型抗ウイルス薬投与前後における食道胃静脈瘤の変化に関する検討. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
66. 桑原礼一郎、江森啓悟、井上博人、天野恵介、久永 宏、佐野有哉、有永照子、井出達也、鳥村拓司. ワークショップ (3). 肝移植と門脈圧亢進症-現状と問題点-. 肝移植医療における外科・内科の連携と肝臓内科医の貢献. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
67. 久永 宏、江森啓悟、井上博人、於保和彦、豊永淳、鳥村拓司. 要望演題 1. 小児の門脈圧亢進症. 小児食道胃静脈瘤治療の検討. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
68. 江森啓悟、井上博人、久永 宏、於保和彦、豊永純、鳥村拓司. 要望演題 2. 異所性静脈瘤. 当科における異所性静脈瘤の治療戦略. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
69. 井上博人、江森啓悟、久永 宏、於保和彦、豊永純、鳥村拓司. 要望演題 5. 左側門脈圧亢進症. 左側門脈圧亢進症に伴う胃静脈瘤に対する診断と治療. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
70. 新関 敬、江森啓悟、井上博人、久永 宏、鳥村拓司. 要望演題 6. 肝臓合併門脈圧亢進症に対するマネジメント. 肉眼的脈管浸潤を有する進行肝細胞癌に対する New FP 療法を施行した症例における胃食道静脈瘤の臨床的危険因子の検討. 第27回日本門脈圧亢進症学会総会. WEB. 2020/10
71. 牛島知之、岡部義信、島松 裕、平井真吾、深堀理、安元真希子、鶴田 修、鳥村拓司. 急性膵炎後の膵周囲液体貯留に対する内視鏡治療の有用性と問題点に関する後方視的検討. 28th JDDW (第100回日本消化器内視鏡学会総会). 神戸市. 2020/11
72. 吉岡慎一郎、福永秀平、光山慶一、荒木俊博、鶴田耕三、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、草場喜雄、永田 務、向笠道太、鶴田 修、鳥村拓司. 画像強調内視鏡を用いた潰瘍性大腸炎関連腫瘍の特徴-色素拡大内視鏡から超拡大内視鏡と AI 解析まで-. 28th JDDW (第100回日本消化器内視鏡学会総会). 神戸市. 2020/11
73. 川口 巧、由雄祥代、鳥村拓司. ワークショップ (2). 肝臓を基軸とした臓器連関. 筋収縮誘発性マイオカイン decorin が肝臓患者の身体機能と予後におよぼす影響. 28th JDDW (第24回日本肝臓学会大会、第62回日本消化器病学会大会、第18回日本消化器外科学会大会、第58回日本消化器がん検診学会大会). 神戸市. 2020/11
74. ○佐野有哉、井出達也、鳥村拓司. 当院・関連施設における C 型非代償性肝硬変に対するソホスブビル/ベルパタスビルの治療効果・副作用に関する検討. 28th JDDW (第24回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
75. 鈴木浩之、岩本英希、鳥村拓司. Lenvatinib は腫瘍微小環境を immune cold から hot へと変化させる. 28th JDDW (第24回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11

76. 増田篤高、中村 徹、鳥村拓司. 培養 CD34 陽性細胞移植は NASH に伴う肝線維化を抑制する. 28th JDDW (第 24 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
77. 岩本英希、下瀬茂男、新関 敬、中野聖士、城野智毅、高田晃男、鈴木浩之、古賀浩徳、鳥村拓司. 切除不能進行肝細胞癌に対するレンパチニブ 5 投 2 休法の基礎と臨床. 28th JDDW (第 24 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
78. 岡村修祐、下瀬茂男、新関 敬、蒲池直紀、野田悠、城野智毅、岩本英希、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 造影 CT における造影効果を含めた腫瘍因子からみたレンパチニブの治療効果について. 28th JDDW (第 24 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
79. 蒲池直紀、下瀬茂男、岩本英希、新関 敬、野田悠、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 当院における切除不能進行肝細胞癌に対するラムシルマブの初期使用経験. 28th JDDW (第 24 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
80. 下瀬茂男、新関 敬、岩本英希、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、高田晃男、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司. TACE 不応肝細胞癌に対するレンパチニブ療法と repeated TACE の有効性の比較 傾向スコアを用いて. 28th JDDW (第 24 回日本肝臓学会大会). 神戸市. 2020/11
81. 深堀 理、牛島知之、岡部義信、重藤宏太、田中俊光、長主祥子、阪上尊彦、島松 裕、安元真希子、三輪啓介、鶴田 修、鳥村拓司. 切除不能局所進行肝癌に対する Gemcitabine+nab-Paclitaxel 療法の単施設第 II 相試験. 28th JDDW (第 56 回日本消化器病学会大会). 神戸市. 2020/11
82. ○中村 徹、増田篤高、鳥村拓司. シンポジウム (2). 消化器疾患に対する再生医療の応用. C 型非代償性肝硬変患者に対する自家末梢血 CD34 陽性細胞の経肝動脈投与による肝再生医療研究. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会、第 100 回日本消化器内視鏡学会総会、第 24 回日本肝臓学会大会、第 18 回日本消化器外科学会大会). 神戸市. 2020/11
83. ○黒松亮子、井出達也、鳥村拓司. シンポジウム (4). 肝炎ウィルス制御後の肝癌の実情と治療戦略. 肝癌根治後の DAA を用いた HCV 排除が肝癌再発に及ぼす影響. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会、第 24 回日本肝臓学会大会、第 18 回日本消化器外科学会大会). 神戸市. 2020/11
84. Kawaguchi T, Takahashi H, Torimura T. International Session (Symposium) (1). NAFLD / NASH : 病態解明を目指した最新情報 2020 (NAFLD and NASH: Up-to-date 2020 for elucidation of pathology). An association between CLDQ-NAFLD and brain-derived neurotrophic factor in Japanese patients with NAFLD. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会、第 24 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器がん検診学会大会). 神戸市. 2020/11
85. 中野 暖、川口 巧、鳥村拓司. ワークショップ (14). NAFLD/NASH 治療の展望. 歩行と電気刺激を用いたレジスタンス運動 Hybrid Training System (HTS) が NAFLD 患者の肝硬度におよぼす影響 : ランダム化比較試験. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会、第 24 回日本肝臓学会大会、第 58 回日本消化器がん検診学会大会). 神戸市. 2020/11
86. 島松 裕、岡部義信、安元真希子、牛島知之、平井真吾、深堀 理、谷川雅彦、内藤嘉紀、鶴田 修、鳥村拓司. 当院の腓神経内分泌腫瘍(PNEN)に対する EUS-FNA の診断能の後方視的検討. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会). 神戸市. 2020/11
87. 平井真吾、安元真希子、岡部義信、牛島知之、島松 裕、深堀 理、内藤嘉紀、鶴田 修、鳥村拓司. 当院の通常型膵癌に対する腫瘍径別にみた EUS-FNA の成績と問題点についての後方視的検討. 28th JDDW (第 62 回日本消化器病学会大会). 神戸市. 2020/11
88. Kawaguchi T, Eslam M, Yamamura S, Tsutsumi T, Nakano D, Yoshinaga S, Takahashi H, Anzai K, George J and Torimura T. MAFLD Exceeds NAFLD in Identification of Patients with Significant Hepatic Fibrosis. The 71th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). WEB. 2020/11
89. 蒲池直紀、下瀬茂男、岩本英希、新関 敬、野田悠、城野智毅、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 当院における切除不能進行肝細胞癌に対するラムシルマブの初期使用経験. 第 22 回日本肝がん分子標的治療研究会. 金沢市. 2020/11

90. 城野智毅、下瀬茂男、新関 敬、岩本英希、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、田中正俊、古賀浩徳、鳥村拓司。レンパチニブにおける有害事象発現時期と有害事象による治療中止に関わる因子の検討。第 22 回日本肝がん分子標的治療研究会。金沢市。2020/11
91. 岩本英希、下瀬茂男、新関 敬、中野聖士、城野智毅、鈴木浩之、岡村修祐、野田悠、蒲池直紀、山口泰三、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。切除不能進行肝細胞癌に対するレンパチニブ Weekends-off 法（5 投 2 休法）の基礎と臨床。第 22 回日本肝がん分子標的治療研究会。金沢市。2020/11
92. 鈴木浩之、岩本英希、城野智毅、下瀬茂男、新関敬、山口泰三、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。プレナリーセッション 1。レンパチニブ治療後の清 IGFBP-1 値の上昇は腫瘍内部の虚・低酸素を反映する。第 22 回日本肝がん分子標的治療研究会。金沢市。2020/11
93. 下瀬茂男、田中正俊、新関 敬、岩本英希、城野智毅、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、山口泰三、菅 偉哉、野口和典、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。プレナリーセッション 2。BCLC B 肝細胞癌に対するレンパチニブ治療：on demand IVR 療法の付加的意義（多施設共同研究）。第 22 回日本肝がん分子標的治療研究会。金沢市。2020/11
94. 増田篤高、中村 徹、古賀浩徳、鳥村拓司。NASH モデルマウスに対する培養 CD34 陽性細胞移植の抗線維化作用。第 52 回日本分子形態学会総会・学術集会。WEB。2020/12
95. 古賀浩徳、阪上尊彦、増田篤高、中村 徹、矢野博久、鳥村拓司。Wnt シグナル中枢転写因子 TCE-4 バリエーションの癌細胞における高精度発現解析。第 52 回日本分子形態学会総会・学術集会。WEB。2020/12
96. 増田 裕、高田珠里、林めぐみ、佐々木望、松隈則人、鳥村拓司。前下脛十二指腸動脈瘤破裂の治療後に十二指腸狭窄を来した一例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
97. 住江博明、住江修治、安倍満彦、則松 宏、鳥村拓司。胃型形質の低異型度分化型胃癌の一例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
98. 長田修一郎、久賀征一郎、森田恭代、長田英輔、光山慶一、鳥村拓司。当院での高齢者と比較した若年者における虚血性腸炎の臨床的特徴。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
99. 田中寛士、石井海人、山口翔太郎、南 真平、渡邊裕次郎、草場喜雄、渡辺靖友、白地美紀、梶原雅彦、小野典之、鳥村拓司。当院で施行した大腸ステント留置の検討。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
100. 菅原脩平、小林起秋、後藤諒介、深水 航、柴田 翔、上野恵里菜、河野弘志、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司。HCV のウイルス学的著効（SVR）後に多発肝細胞癌を発症した 1 例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
101. 酒井味和、野田 悠、岡村修祐、新関 敬、岩本英希、城野智毅、下瀬茂男、三原勇太郎、草野弘宣、蒲池直紀、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。肝原発腺扁平上皮癌の 1 例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
102. 大浦路子、井出達也、緒方 啓、堀まいさ、江森啓悟、鳥村拓司。小腸出血、食道静脈瘤、門脈血栓を併発した原発性胆汁性胆管炎の一例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
103. 高木孝太、宮島一郎、桑原朝子、力武祐一郎、桑野 徹、南野隆一、安倍弘彦、鳥村拓司、木村 有。膵癌の浸潤による横行結腸閉塞に対して金属ステントを挿入後、早期に閉塞を来した 1 例。第 116 回日本消化器病学会九州支部例会 第 110 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB。2020/12
104. 吉尾智一、野口和典、坂田研二、河野克俊、豊

- 増 靖、森田 拓、林 大樹、宮崎 健、桑野 徹、河野 隆、西村 拓、田宮芳孝、鳥村拓司。偽膜性腸炎にクリプトスポリジウム症を併発した1例。第116回日本消化器病学会九州支部例会 第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB. 2020/12
105. 下河邊堯、酒井味和、城野智毅、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。肝細胞癌脾転移に対して、造影超音波検査での経過観察が有用であった一例。第116回日本消化器病学会九州支部例会 第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB. 2020/12
106. 大田 諭、新関 敬、酒井味和、牛島知之、岩本英希、下瀬茂男、城野智毅、岡村修祐、野田悠、蒲池直紀、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。造影超音波検査で胆管内腫瘍栓の確定診断に至り、集学的治療を行った一例。第116回日本消化器病学会九州支部例会 第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB. 2020/12
107. 佐野有哉、川口俊弘、井出達也、天野恵介、桑原礼一郎、有永照子、鳥村拓司。ワークショップ(2)。肝炎診療の現在と未来。当院・関連施設におけるC型非代償性肝硬変に対するソホスビル / ベルパタスビルの治療効果の検討。第116回日本消化器病学会九州支部例会 第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB. 2020/12
108. 寺部寛哉、岡部義信、宋 祐人、鳥村拓司。ワークショップ(4)。胆膵領域における診断と治療の進歩。Roux-en Y 再建腸管例に対するショートタイプのダブルバルーンとシングルバルーン。第116回日本消化器病学会九州支部例会 第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同。WEB. 2020/12
109. 森田 俊、鶴田耕三、荒木俊博、吉村哲広、山崎 博、桑木光太郎、吉岡慎一郎、竹田津英稔、光山慶一、鳥村拓司。慢性大腸炎モデルに対する青黛の有効性と作用機序についての検討。第11回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)。WEB. 2020/12
110. 酒見亮介、吉岡慎一郎、森田 拓、森田 俊、鶴田耕三、森 敦、吉村哲広、荒木俊博、桑木光太郎、宗 祐人、光山慶一、鳥村拓司。炎症性腸疾患における血清LRG測定の有用性についての検討。第11回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)。WEB. 2020/12
111. 岩本英希、鈴木浩之、阪上尊彦、今村恭子、早川政子、中村 徹、増田篤高、田中俊光、古賀浩徳、鳥村拓司。肝細胞癌における癌血管特異的micro RNA を利用した血管新生抑制治療。第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会。久留米市。2020/12
112. 鈴木浩之、岩本英希、中村 徹、増田篤高、阪上尊彦、田中俊光、今村恭子、早川政子、古賀浩徳、鳥村拓司。HCC に対する分子標的治療が腫瘍免疫微小環境に与える影響の検討。第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会。久留米市。2020/12
113. 増田篤高、中村 徹、岩本英希、鈴木浩之、阪上尊彦、田中俊光、古賀浩徳、鳥村拓司。NASH モデルマウスにおける培養 CD34 陽性細胞移植療法抗線維化作用の検討。第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会。久留米市。2020/12
114. 岡村修祐、下瀬茂男、新関 敬、蒲池直紀、野田 悠、城野智毅、岩本英希、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。造影CTにおける造影効果を含めた腫瘍因子からみたレンバチニブの治療効果について。第56回日本肝癌研究会。大阪市。2020/12
115. 野田 悠、酒井味和、三原勇太郎、岡村修祐、蒲池直紀、中野聖士、城野智毅、下瀬茂男、岩本英希、新関 敬、草野弘宣、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。肝原発腺扁平上皮癌の1例。第56回日本肝癌研究会。大阪市。2020/12
116. 岩本英希、新関 敬、下瀬茂男、中野聖士、城野智毅、鈴木浩之、岡村修祐、野田 悠、蒲池直紀、山口泰三、古賀浩徳、鳥村拓司。切除不能進行肝細胞癌に対するレンバチニブWeekends-off法(5投2休法)の試み。第56回日本肝癌研究会。大阪市。2020/12
117. 鈴木浩之、岩本英希、城野智毅、下瀬茂男、新関 敬、山口泰三、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司。レンバチニブ治療後の血清IGFBP-1値の上昇は腫瘍内虚血を反映する。第56回日本肝癌

研究会. 大阪市. 2020/12

118. 蒲池直紀、下瀬茂男、岩本英希、新関 敬、中野聖士、岡村修祐、城野智毅、野田 悠、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. 当院における切除不能進行肝細胞癌(HCC)に対するラムシルマブの初期使用経験. 第 56 回日本肝癌研究会. 大阪市. 2020/12
119. 城野智毅、新関 敬、岩本英希、下瀬茂男、古賀浩徳、鳥村拓司. 肝細胞癌に対する Balloon-Occluded TACE と Coventional TACE の TE4 結節の比較. 第 56 回日本肝癌研究会. 大阪市. 2020/12
120. 下瀬茂男、田中正俊、新関 敬、岩本英希、城野智毅、蒲池直紀、野田 悠、岡村修祐、中野聖士、山口泰三、菅 偉哉、野口和典、黒松亮子、古賀浩徳、鳥村拓司. パネルディスカッション(2). 経動脈的治療における進歩と個別化 . BCLC B 肝細胞癌に対するレンバチニブ、IVR 療法の Alternation Therapy の意義. 第 56 回日本肝癌研究会. 大阪市. 2020/12
121. 新関 敬、下瀬茂男、鳥村拓司. ワークショップ (1). 高度進行肝細胞癌に対する集学的治療の展開 . 進行肝細胞癌に対する New FP 療法の予後良好群の設定、及び分子標的治療薬の介入の意義. 第 56 回日本肝癌研究会. 大阪市. 2020/12
122. 牛島知之、岡部義信、島松 裕、平井真吾、深堀 理、安元真希子、鶴田 修、鳥村拓司. 急性膵炎後の膵周囲液体貯留に対する EUS 下経消化管的ドレナージ術の検討. 第 51 回日本膵臓学会大会. WEB. 2021/1
123. 宮川はるか、佐野有哉、桑原礼一郎、川口俊弘、天野恵介、有永照子、井出達也、池上 徹、鳥村拓司. 生体肝移植術後早期から、内科にて遷延する肝障害の原因検索と加療を行った 1 例. 第 332 回日本内科学会九州地方会. WEB. 2021/1
124. 川口 巧、鳥村拓司. 代謝異常と中等度飲酒が脂肪肝患者の肝線維化におよぼす影響. 第 40 回アルコール医学生物学研究会学術集会. WEB. 2021/1

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

